

歯止めなき自由化 市場まかせ の自民党政治やめ

いまこそ日本の **食**と**農**の未来を きりひらこう!

食料自給率が38%に低迷し、肥料など農業資材の大半も海外だのみ。

世界の食料危機で、その危うさはあきらかです。一方、農業の中心的担い手はこの22年で半減、20年後にはさらに4分の1に激減するとの予測も。

このままでは農業の担い手がいなくなり、国民の飢えが現実化しかねません。



日本共産党

アメリカと大企業の利益を最優先 農業を切り捨て続けた半世紀

歯止めなき自由化

60年代	麦・大豆
80年代	牛肉・かんきつ
90年代	WTO農業協定で米まで輸入
2000年以降	TPP、日欧EPA、日米貿易協定など 巨大自由化を次つぎ

ここまで危機が広がったのは歴代政府が輸入自由化を際限なく受け入れてきたからです。アメリカの食料戦略に屈服し、輸出大企業の利益を最優先した結果にほかなりません。

米づくりの時給2年連続10円!

	20年	21年	22年
農業粗収益 千円①	3450	3503	3783
農業経営費 千円②	3271	3493	3773
農業所得 千円③(①-②)	179	10	10
自家労働時間 ④	987	1005	1003
時間当たり農業所得 ③÷④	181	10	10

農水省「営農類型別経営統計」より

「農業に金をかけるのはムダ」といって価格保障などを投げ捨てきたのも危機を招いた原因です。いまや米作りの時給は10円です。これでは若者が農業を継ぐことはできません。

岸田
政権

基本法の「改正」、
“食料有事法制”の導入

《ついに》

自給率向上の 目標を放棄する までに

今国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案。自給率向上目標を「指標の1つ」に格下げし、政府の方針では「自給率向上」を投げ捨て。そのうえ、「イザ」となったら農家に「イモ作付け」等を強制する“食料有事法制”までねらっています。戦前を彷彿させる亡国農政そのものです。

米国いいなり 財界中心 の

亡国農政を 転換 しましょう

農業つぶしの根本にあるのは「アメリカいいなり」「財界中心」の自民党政治です。国民の苦しみをよそに「裏金作り」や「戦争する国づくり」に熱中するのも、根っこは同じです。

いま、自民党政治はあらゆる分野で行き詰まり、国民の怒り・不信が広がっています。多くの国民、農業者が力をあわせ、亡国政治を転換し、食料・農業・農村に希望ある未来を切り開きましょう。



私たちの

食と農の再生プラン

があります

わが国には、温暖多雨な自然条件、高い農業技術の蓄積など
農業を豊かに発展させる条件は十分にあります。

日本共産党は、その条件をフルに生かし、農業と農村の再生、食料自給率の向上に全力をつくします。

その
1「自給率の向上」を
国政の中心課題に
ドンとすえる

- ✓ 食料・農業・農村基本法に、自給率向上の実効ある計画策定、検証結果の国会報告を政府に義務付けることを盛り込む
- ✓ 自給率50%の早期回復、引き続き60%、70%台をめざす
- ✓ 輸入自由化路線を転換し、食料主権を回復する
- ✓ 米のミニマムアクセス、乳製品のカレントアクセスを中止する

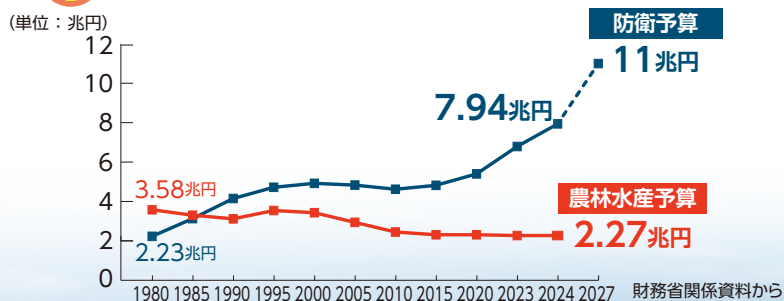
その
3農林水産予算の
削減やめ、
増額にチェンジ

農林水産予算は一貫して縮小し、いまや軍事費の3分の1以下です。
この流れの転換なくして農業の再生はありえません。

- ✓ 国の予算に占める農林水産予算の割合を高め、
関連予算を含めて抜本的に増額する



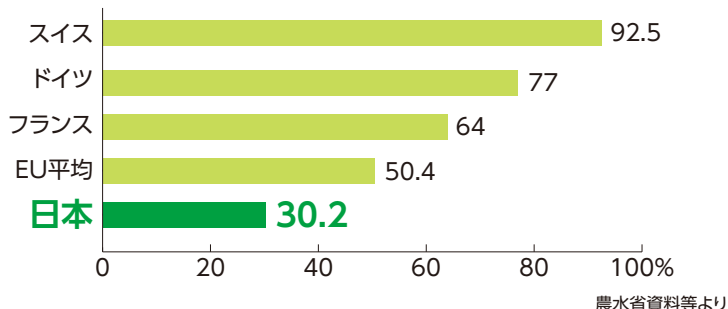
農林水産予算と防衛予算の推移

その
2農業・農村で
暮らせる土台を
政府の責任で整える

EU諸国は手厚い施策で農家を支えています。大多数の農家が営農を
続け、農村で暮らせる土台の整備は政府の責任です。

- ✓ 米や生乳などに販売価格と生産コストの差額を
補てんする制度を創設する
- ✓ 農地の多面的機能に配慮した直接支払いを抜本的に拡充する
- ✓ 大小多様な農業者をすべて大事な担い手に位置づけ、支援する
- ✓ 新規就農者の確保・育成に国・行政の支援を格段につよめる

¥

EU諸国に比べ極端に少ない
日本の農業所得に占める補助金の割合

農業と農村は

循環型で持続可能な社会に欠かせない

農業や農村は食料の供給とともに国土や環境の保全、伝統文化の維持などかけがえない役割をはたしています。

農業と農村の再生、食料自給率の向上は、地域循環型で持続可能な社会の発展に欠かせません。

世界の飢餓問題の解決、気候危機の打開など人類社会への大きな貢献にもなります。

日本共産党はアメリカや財界の横暴にきっぱりものいう党です。

農業を国の基幹産業に位置づけ、再生に全力をつくします。